

第十二回 しませ 島清ジュニア文芸賞 受賞作品

『優秀賞』

【小学生低学年作文の部】

スイミング

鳥越小学校 二年 石倉 真理子
いしくら まりこ

わたしは、スイミングきょうしつにかよっています。にいちやんが
じょうずにおよぐのが、うらやましかったから、ならいはじめました。

はじめは、水あそびみたいでプールが大すきでした。学校でなかよしの
友だちもたくさんいるので、スイミングの日がたのしみでした。でも
だんだんむずかしくなって、きらいなことがでてきました。なかなかで
きなくて、行くのがいやになってきました。

スイミングの日は、学校からのかえりみちだんだんおながいたくな
ってきます。おなががいたいとおばあちゃんに言うとう、

「スイミングのじかんまで、ねとるまっし。」
と言います。本当は、休まっしと言っただけで、言ってくれ
ないから言っています。

よこになって目をつぶっていると、いろんなことを思います。スイミ
ングで友だちにあえるのはうれしい。なかよしの子とれんしゅうのあと、

キャンディーのこうかんをするのもたのしみ。だから行きたい。でも水
の中にもぐつてとび上がるのががてで、うまくできない。みんなにへ
たなところを見られるのがはずかしいから行きたくない。行きたいのと
行きたくないのが、心の中でけんかします。にいちやんがしんぱいして、
ボウリングのやりかたを教えてくださいました。いつもは、おこつてばかりだ
けど、とてもやさしく教えてくださいました。にいちやんが、
「だいじょうぶや。ぜったいできる。」

と言うと、本当にそんな気になります。そして、行くことにきめると、
おなかのいたいのがなくなります。

スイミングのところで友だちの顔を見ると、元気がわいてきます。い
そいできがえてプールへとび出していきます。ボウリングは、やっぱりじ
ょうずにできなくても、来てよかったといい気もちになります。

一年生の間は、ぜんぜんしんきゅうできなくて、きゅうがどんだん先
にすんだ友だちにおいていかれて、やめたいと思いました。でも、つ
ぎはぜったいごうかくするよと、友だちやコーチに言われて、やめずに
がんばっていました。さいごのテストでやっとしんきゅうできたので、
とてもうれしかったです。がんばってきて、本当によかったなあと思
いました。友だちがよかったねと言ってくれて、大きな声でありがとうと
いいました。

二年生になった今は、スイミングがいやでなくていいことはありませ
ん。この間のしんきゅうテストはだめでした。でも、一年生のときみた
いにもうやめたいとは思いません。がんばってつぎこそはぜったいごう
かくするぞと思っています。

一人だったらいやになってまたやめようと思うかもしれないけれど、
友だちやにいちやんがおうえんしてくれるから、あきらめないでがんば
ります。

《選評》

楽しく、大好きなスイミングを一生懸命頑張っている自分の気持ちを、素直に表現しており、兄弟や友だちに協力してもらいながら、前に進むという強い決意が見てとれます。子供らしい素直な前向きさが非常に印象的で良かった作品です。